統一のため交流は必要
まず行動すること
第一回三山交流オルグの感想

第二次提案を前にして、三山交流が行われたことは非常に有意義なものであつたことを卒直に認めます。有意義であつたということは、大きな成果があつたということであり、三山の統一目標に積極的な一面を開いたことになる。

これは八月十九日（田川）二十日（山野）二十二日（三池）へそれぞれのヤマから各十名のオルグが参加し、来るべき第二次企業合理化にいかに対処するかということの教育交流をはかつた三池オルグの感想の一端である。以下この交流オルグに参加した人々の報告を集約してみました。

赤字でツブれぬか

三山を通じて出された質問は、多くの問題をかかえている三池のことについてが圧倒的に多く、主な質問としては

○朝日新聞を見て、三池、美唄の二山が首切りに反対し、他の四山は認めたのではないか

○三池の職場や地域の機構はどうなつているのか

○分会長の権限はどの位あるのか

○遠藤分会長はどの様なことをやつたから首を切られたのか

○新聞では、「ホーベル」は使用せず倉庫に入れてあると書いてあつたが、なぜ使用しないのか

○赤字だから闘争すれば三井鉱山はツブれるのではないか

○三池はこんどの首切りをハネ返すといつているが本当にその自信があるのか

○三池主婦会は強制的に加入させているというが本当か

○三池は会社ばかり攻撃する前にまづ自分を考えたらどうか。今度の希望退職で三池一五七名、田川二九二名、山野三二三名だ山野、田川だけが三池のシワよせを食つている。このままでいくとまた山野、田川で第二次案も背負うことになる。

○一時間五十分のストは効果があるか

○三鉱連大会の各山報告はどのようにやられたか

○三池や山野では扇たたきはなかつたか

○山野では労務の切りくずしでしつくりいかん、三池は「くり込み」はどうやつているか

○三池では何かやると座込みをやると聞くが本当か

主婦の交流も必要

三山交流情宣をうけた組合員および主婦の意見や要望は、より高くこのような交流をはかり、三山の意思統一を行いたいということが多かつた。

○今後の交流には主婦会も来てもらいたい

○今後もこのような話合いの場を再三つくつて頂きたい

○三池には学ぶ点がたくさんある三池だけが強くても大きな闘争は勝てないと思うので、手をつないで三山、三鉱連の闘いとしなければならない

○婦人は婦人の同志の話合いがしたい

決意も新たにデモを行う田川炭婦協

情宣が不徹底だ

田川　河野長徳

千名の組合員なので、情宣・団結など容易であろうと思うが、種々と問題があるようである。

学習意欲が盛ん

田川　三苫正利

三池は日本一多い組合員をもち組合費も千分の二十二と多く、財政も豊かなので、規模の点においては比較にならない。

講師も交通の便がよいので気がるに呼べるし、組合員自体の学習意欲もさかんである。

三池自体プリント組合と自称するように、いたる所に闘争を盛上げるよう印刷物がはつてある。もちろん組合で印刷工場をもつているし容易にできるのであろう。

主婦会の討論意欲に感心した。しかし、討論のための討論でなく地についた討論をするように願いたい。三池の組合員・主婦会が三鉱連のイニシャチブをとつているという考えはよいが、三池も三鉱連内の一山であるという現実がうすれているのではないか？

また、職場闘争においても、話合いで解決のつくものは簡便に話合うべきである。われわれより戦闘的であるが、六山の団結と三池自体の将来について、道を誤らぬよう願いたいものである。

山野労組は近所に中小鉱を多くもち、その状態を多く知つているだけに、非常に観念的で執行委員のいないところでは、いろいろとグチをならべる。

中には、執行委員の前で「勇退募集のとき執行部は放任して何ら処置をとらなかつた」といつた人もあつたが、執行委員の説明で、われわれもよくわかつた。

青行隊の組織はよくできているが、情宣など不徹底の点があつて組合員は、われわれが話して知つたというようなこともあつた。四

怒りの抗議に共鳴

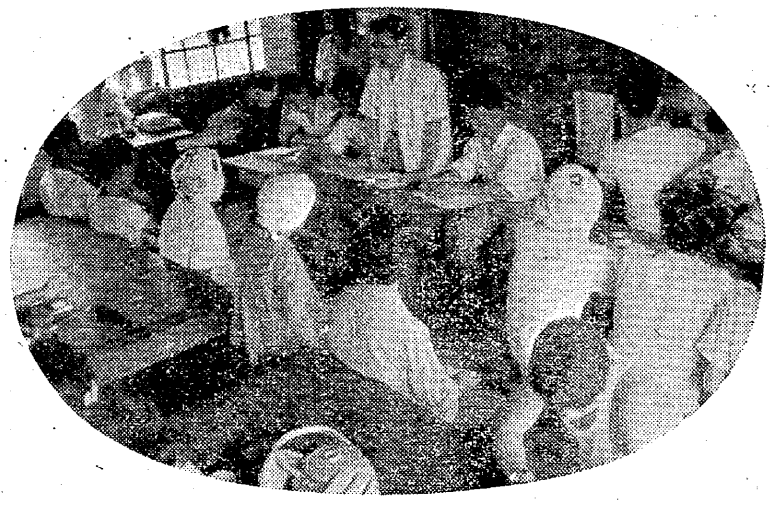
山野　井浦雅章

企業合理化に関する賃金分割払、首切り、期末手当ゼロ回答という興奮を攻撃を三井鉱山は私たちにかけているおり、炭労指令に基き三池、田川、山野情宣交流オルグ員に指名され、八月二十二、二十三日の二日間三池のオルグとして参加することになり、現地の模様を伝えます。

三池労組は十九日より四日間炭婦協による主婦会が午前午後にわかれたピストン抗議行動（一日千八百名）が本社事務所に行動中でした。

私たちは抗議集会に参加でき、主婦会員一人ひとりが炎天下の中を顔の色は真黒く、背に子供を、瞳の輝きも違つた怒りをこめ激しい抗議を行つた。主婦会抗議団（二十名）が会社三役課長に激しくつめよる声が、涙とともに本社事務所の裏庭に集合している主婦の頭の上を力強くマイクを通じて流れてきた。この抗議はえんえんと四時間も過ぎたが、一人も乱れた行動をとる人もなく聞き入つている姿を見たときに私たちはいろんな面の勉強になり、今後学習活動などを浸透させることを深く痛感しました。

夜は六時より「三川」「四山」「宮浦」「本所」「港務」と六班にわかれて職場代表者の「生産点との対決」という自由討論に参加し青年・主婦会の人と率直に組合活動について話し合い、各々がプラスになる点を修得し、今後組合運動の前衛となり戦闘的な動力になりうる確信ができるかと思つています。



職場で行う情宣と懇談会（山野）

意思統一が必要

山野　吉見満洲男

三鉱連六山にもそれぞれの闘つてきた歴史と経過が異つてきているから必ずしも三鉱連の意思が三池の考え方と一致するとは判断されないし、また事実でもある。問題はそんな違つた考え方（思想）をもつそれぞれの六山がこんどの企業整備に対してどのような意思統一をし、闘うという決意をするかが一番重要な問題だと思う。そのためにも今後の交流オルグを強化し六山が意思統一できるよう態勢強化が必要であろう。

何事も成功させるためには相当な努力が必要であることを深く感じた。

情宣の徹底が必要

山野　法錢悟

台風六号の去つた残暑のきびしい八月十九・二十日の二日間、西鉱連三山交流オルグとして、山野より中央委員、青行隊一行十名は午前十時ごろ田川労組本部についた。友山の三池が到着していないので休憩。十二時半より、ついたばかりの三池オルグとともに会議室に集合する。

田川の谷口情宣部長の挨拶ののち、その指示に従い、三池のオルグ杉本氏と二人一組、旧一坑情宣に割当てられた。ニュースカーにゆられて約十分で旧一坑社宅につく。ここは四・五年まえに坑口閉鎖を行い、社宅のみである。さつそく集合所へといそぐ。

集合所には婦人幹部、組長さんたちが約三十名ばかり集つておられた。駐在常任高倉さんの司会でさつそく懇談会を開いた。

まず主婦の方々の一番心配している点を中心に、話題をすすめる田川でも来る二十五日ごろに出される第二次案について、相当な関心をもつており、地域的に近くの中小炭坑がつぎつぎにつぶれて、失業者のあふれている実態を目前になにが、首切りについてはあくまで闘うという決意のほどがうかがわれた。そして、山野の共済会の積立の金額が多いとおほめの言葉をいただき、この真面目をほどこした。

また、田川では闘争資金が少いことと、それに情宣がまだ徹底していないし闘争の本質が理解されていないことなどを強く指摘された。この点について、三池の杉本氏から、三池自体の状態をくわしく説明された。

三池のもりあがつた主婦会の意気には、聞いておられた方々のホホに感動の色がありありと浮んでみえた。生活対策などについても種々活ぱつな論議が繰りかえされ有意義な集会が約三時間にわたり行われた。

われわれは、もつとも効果のある三山交流をつぎつぎに行つて、ますます闘争態勢を固めて行われることを熱望して、この報告を終りたい。

執行部信頼が必要

三池　松井勝美

組織をつくるということは非常に困難で、私たちも現在ある組織の再点検を何度かやつて来たが、まだまだ完璧とは行かない。この組織上の機構そのものが田川、山野ともに不足しており、私が行つて直感的に非常に執行部は執行部組合員は組合員と各個ばらばらに行動されていられる感じがした。田川における機構は今ようやく職場分会の編成にかかつておられるし、山野の地域分会も編成にようやく踏み切つておられるようですが、早急に結成して頂き、職場で地域で起る小さな苦情も吸い上げられるところまで発展させて頂きたい。そのためにはまず執行部が組合員の中にはいつて常時組合員とともにあるという心構えが必要ではないかと思います。

そうする事によつて執行部に対する組合員の信頼感が増すし、信頼感の上にたつた執行部に対する批判も生まれるのではないか、ということは組合員の発言の内容や接触が物語つております。三山交流オルグを今後も続けてもらいたいという要望はお互い友山の実情を知りたいということであり、卒直にいつて今の三池と田川、山野の皆さんとの間には大きい感かくのずれが感じられ、この感じのずれはどこから来るか、私たちの一番敏感な首切りに対する感かくが鈍感なように感じました。これは会社の労務政策の積極さが社宅の区分とか、職場にある班長制度で考へられます。

まずこれを打破することが一時間五十分の時限スト、あるいは九一号指令にもとずく職場闘争の完全消化につながるのではないかと考えられます。私たちはもつともつと田川、山野にあるもの、そして三池にあるものをうんと出し合つて、同く手を結び第二次企業合理化に対決すべきときだと思います。このために田川、山野の皆さんに首切りは皆ではね返そうの合言葉をお贈りし御健闘を祈ります。

多い職場の活動家

三池　波村一一

山野は田川にくらべて職場の活動者は多いと思うが、職場には班長制度があり、地域には労務があり、活動しようとしてもやりにくいようである。

職場の小さい問題でも職場委員が交渉するのではなく、執行部に交渉させているが、このようなことでは職場闘争はできない。

委員会報告は行なわれているが、それも指令だけであり、山元での情勢分析などの情宣も行われていない。

また、会社側の〝赤字宣伝〟が浸透しており、第一次案で山野の退職者がすくなかつたことからくる〝シワよせ〟であるし、第二次合理化も同様であるというふうに理解されている。

三鉱連大会の理解も、その報告も「労働条件は下げても首切りは守る。四・六協定では希望退職を認めたから、つぎに希望退職がきても認める。ただ〝指名解雇〟だけは反対する」ということのようである。

執行部の指導性により闘争の方針も変るが、山野ではその指導性が全然ないようである。

素質はみんな同じ

山野　南喜咳人

組合運動の源泉はいうまでもなく大衆行動である。大衆を行動の面でいかにして組織化するか、これをなし遂げるとき組合運動は完全に成就されたと見るべきである。

労働者は行動によつてその真髄を理解し、さらに進んで学習へと歩を進め行動→学習と反覆運動（相互の働き）によつて「万人は一人のために、一人は万人のために」といううるわしい人間関係を形成するのである。

さて、私はこんど交流オルグとして三池に派遣された。交流の過程でかねがね考えていた私の主張がわれわれは比較にならない。

何事も成功させるためには相当な努力が必要であることを深く感じた。

そうする事によつて執行部に対する組合員の信頼感が増すし、信頼感の上にたつた執行部に対する批判も生まれるのではないか、ということは組合員の発言の内容や接触が物語つております。三山交流オルグを今後も続けてもらいたいという要望はお互い友山の実情を知りたいということであり、卒直にいつて今の三池と田川、山野の皆さんとの間には大きい感かくのずれが感じられ、この感じのずれはどこから来るか、私たちの一番敏感な首切りに対する感かくが鈍感なように感じました。これは会社の労務政策の積極さが社宅の区分とか、職場にある班長制度で考へられます。

まずこれを打破することが一時間五十分の時限スト、あるいは九一号指令にもとずく職場闘争の完全消化につながるのではないかと考えられます。私たちはもつともつと田川、山野にあるもの、そして三池にあるものをうんと出し合つて、同く手を結び第二次企業合理化に対決すべきときだと思います。このために田川、山野の皆さんに首切りは皆ではね返そうの合言葉をお贈りし御健闘を祈ります。

多い職場の活動家

三池　波村一一

山野は田川にくらべて職場の活動者は多いと思うが、職場には班長制度があり、地域には労務があり、活動しようとしてもやりにくいようである。

職場の小さい問題でも職場委員が交渉するのではなく、執行部に交渉させているが、このようなことでは職場闘争はできない。

委員会報告は行なわれているが、それも指令だけであり、山元での情勢分析などの情宣も行われていない。

また、会社側の〝赤字宣伝〟が浸透しており、第一次案で山野の退職者がすくなかつたことからくる〝シワよせ〟であるし、第二次合理化も同様であるというふうに理解されている。

三鉱連大会の理解も、その報告も「労働条件は下げても首切りは守る。四・六協定では希望退職を認めたから、つぎに希望退職がきても認める。ただ〝指名解雇〟だけは反対する」ということのようである。

執行部の指導性により闘争の方針も変るが、山野ではその指導性が全然ないようである。